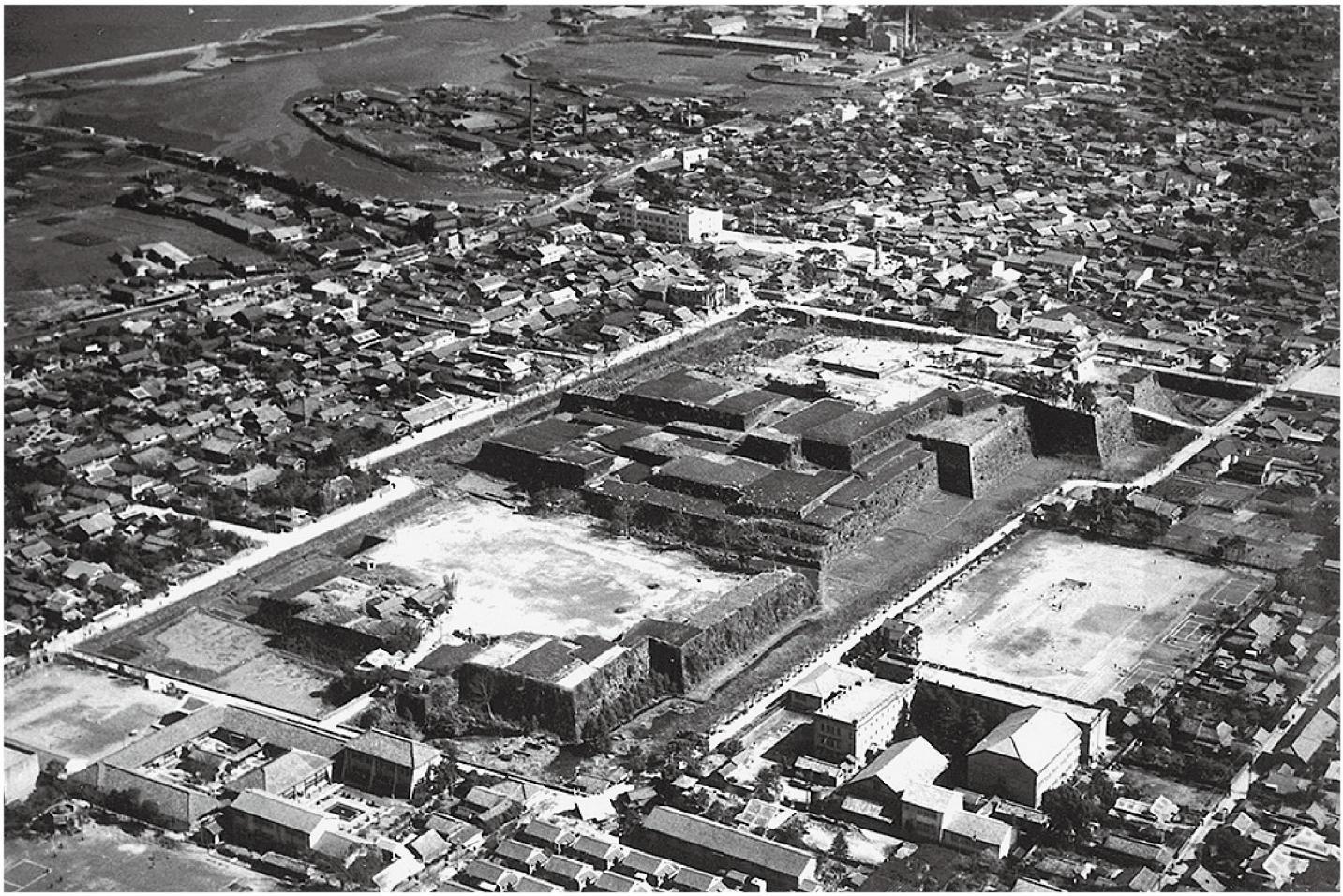


昭和37年頃の航空写真

探しています 島原城 古写真・絵図



島原城の記録を後世に伝承するため島原城や城下町の**「古写真や絵図」**を探しています。

2024 400th
島原城築城400年 繋げ未来へ!

◆応募方法

島原城築城400年記念事業実行委員会へご応募ください。

(1)現物、プリントされた写真の場合…郵送または持参

(2)デジタルデータの場合…メール添付（最大10MB）またはデータを保存したディスク（CD・DVD）を郵送または持参

募集する古写真や絵図のテーマ、応募する際の規格、注意事項等、詳しくは、裏面・またはホームページをご覧下さい▼

島原城築城400年記念事業実行委員会

〒855-8555　長崎県島原市上の町537番地（島原市役所しまばら観光おもてなし課内）
電話:0957-63-1111　　電子メール:sbj400@city.shimabara.lg.jp

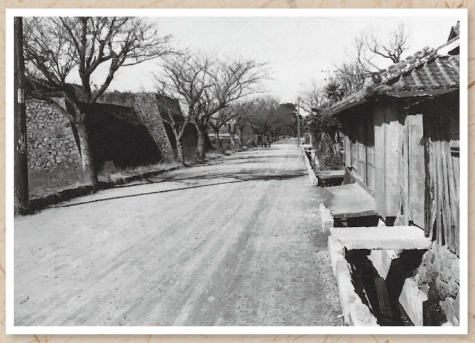
島原城・城下町の古写真



島原駅前から本丸の石垣をのぞむ



天守閣工事起工式（旧天守台が見える）



かつての島原城堀端

募集要項

1　募集する古写真や絵図のテーマ

天守閣・櫓の復元以前（昭和３９年以前）の写真や絵図を募集対象とします。
⑴島原城……天守閣、櫓、堀、城内、門、石垣など、島原城の写真・絵図
⑵城下町……島原城下のまちなみ、武家屋敷などの写真・絵図

2　応募する際の規格

応募に際しては下記の規格にて送付ください。
⑴お持ちの写真・絵図の現物を応募いただける場合は現物
⑵プリントされた写真
⑶デジタルデータ
（JPEG以外のファイル形式の場合は事前にご連絡ください。）

3　募集期限

令和６年３月３１日まで

4　注意事項

⑴応募いただいたデジタルデータは返還いたしません。
⑵応募いただいたプリントされた写真や現物は、デジタル画像に変換した後に返還いたします。
⑶応募いただく写真や絵図は、応募者ご本人の所有物であり、著作権を完全に保有しているものに限ります。第三者が発行する印刷物やホームページ等から転用されたものは受付できません。
⑷応募いただいた写真の著作権は撮影者（応募者）に帰属しますが、今後、市の事業での使用について、撮影者（応募者）は許諾するものとします。
⑸応募された写真・絵図の全てを展示や広報に使用するものではありません。
⑹応募に関する個人情報は、本企画以外の目的に使用しません。
⑺本要項に記載のないことについては、応募者と協議のうえ決定します。

◆応募方法・お問い合わせ先

島原城築城４００年記念事業実行委員会まで下記の方法にてご応募ください。
⑴現物、プリントされた写真の場合……郵送または持参
⑵デジタルデータの場合
……メール添付（最大１０ＭＢ）またはデータを保存したディスク（ＣＤ・ＤＶＤ）を郵送または持参

島原城築城４００年記念事業実行委員会
〒855-8555　長崎県島原市上の町５３７番地
（島原市役所しまばら観光おもてなし課内）
電話：0957-63-1111
電子メール：sbj400@city.shimabara.lg.jp

島原城歴代城主と主な歴史

一六一六年（元和２年）**松倉重政（初代城主）入国**
有馬氏の後を継いだ松倉重政は、一国一城の制にしたがって従来あった原城と日野江城を廃して島原城（別名：森岳城）の築城を開始する。

一六一八年（元和４年）島原城築城に着工

一六二四年（寛永元年）島原城完成

一六三〇年（寛永７年）**松倉勝家第二代城主となる**
重政が急逝した後を受けて藩主となった勝家は、過酷な収奪を行って領民を苦しめ、厳しい年貢の取立てとキリシタン弾圧も重なり島原の乱が勃発したといわれている。

一六三七年（寛永14年）島原の乱勃発

一六三八年（寛永15年）**高力忠房第三代城主となる**
高力忠房は乱後で混乱していた島原の農民に神仏の信仰をすすめて人心の安定を図り、移住奨励など人口回復政策を採用して島原の復興に努めた。

一六五五年（明暦元年）**高力隆長第四代城主となる**

一六六九年（寛文９年）**松平忠房第五代城主となる**
松平家は九州の隠れ目付けといわれ外様大名の多い九州に打ち込まれたクサビとして幕府に重宝がられた。文雅を愛でる武将として「松平文庫」を残している。

一六九八年（元禄11年）**松平忠雄第六代城主となる**

一七三五年（享保20年）**松平忠倚第七代城主となる**

一七三八年（元文３年）**松平忠刻第八代城主となる**

一七四九年（寛延２年）**松平忠祇第九代城主となる**

一七四九年（寛延２年）**戸田忠盈第十代城主となる**

一七五四年（宝暦４年）**戸田忠寛第十一代城主となる**

一七七四年（安永３年）**松平忠恕第十二代城主となる**

一七九二年（寛政４年）雲仙普賢岳噴火（島原大変）
雲仙岳噴火による領民の救済のため、江戸幕府や領内外から寸志銀を集めた。また八ゼ・ロウの増産で財政を立て直し藩財政の再建も目指した。

一七九二年（寛政４年）**松平忠馮第十三代城主となる**

一八一九年（文政２年）**松平忠侯第十四代城主となる**

一八四〇年（天保11年）**松平忠誠第十五代城主となる**

一八四七年（弘化４年）**松平忠精第十六代城主となる**

一八五九年（安政６年）**松平忠淳第十七代城主となる**

一八六〇年（万延元年）**松平忠愛第十八代城主となる**

一八六二年（文久２年）**松平忠和第十九代城主となる**

一八六七年（明治元年）明治維新・江戸幕藩体制崩壊

一八七六年（明治９年）島原城解体・撤去

一九六〇年（昭和35年）島原城西の櫓復元

一九六四年（昭和39年）島原城天守閣復元